

児童生徒質問紙の結果概要

1 実施内容と傾向

(1) 目的

児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握・分析し、今後の個に応じたきめ細かな指導方法の改善に生かすとともに、家庭学習の在り方や教科指導の充実を図るための参考資料とする。

(2) 実施学年及び内容

小学校5年 14項目

中学校1・2年 15項目

- ①家庭学習に関する状況及び意識の傾向
- ②学び方についての実態や意識の傾向
- ③教科指導に対する認識（国語，社会，算数・数学，理科，英語）
- ④授業の在り方に対する意識の傾向

(3) 分析の仕方と活用

- 「学力調査」の結果との関係等を分析し、今後の指導方法の改善・充実に活用する。
- 「学力調査」と「学習状況調査」の結果の関連を分析し、家庭学習の在り方や、学び方等の個別指導に生かす。

(4) 児童生徒の傾向

① 家庭学習に関する状況及び意識

- 家庭学習はほとんどしない（塾で学習するだけ，または学校以外ではほとんど学習はしない）児童生徒の割合は，小5が2.9%，中1が5.0%，中2が7.8%で，学年が上がるにつれて高くなる傾向にある。
- 宿題の量についての意識は，国語，社会，算数・数学については，中1・2より小5の方が量が多いと感じている割合が高い。
- 自学ノートなどの内容として，小5は「ドリルの問題をする」が37.2%と一番高く，中1・2では，「教科書や問題集の練習問題をする」割合がそれぞれ48.4%，53.1%と一番高いなど，既存の練習問題を解く学習をしている児童生徒が多い。

② 学び方についての実態や意識の傾向

- 分からない問題への対応として，小5，中1は「家族や親戚に聞く」が一番高く，中2は「友達に聞く」か「自分で調べる」と回答した割合が高い。「そのままにしておく」と回答したのは，小5が6.2%，中1が11.0%，中2が13.6%であり，学年が上がるにつれて増加する傾向にある。
- ノートのとり方では，「板書してあることを写す」と回答した割合は，小5が38.8%，中1が53.2%，中2が60.0%と学年が上がるにつれて増加しており，逆に，「自分や友達の考え，先生の言葉などを書きこんでいる」「板書を参考に自分なりにまとめ直しながら書いている」と回答した割合を合わせると，小5で50.4%，中1で41.0%，中2で34.5%と減少している。
- 初めての学習内容に対しては，小5の約65%が「楽しみだ」と回答しているが，中1の49.0%，中2の54.9%が「何も思わない」「できるか（わかるか）心配」「どうせできない」と回答している。

③ 教科指導に関する認識

○ 国語

- ・ 「先生の説明を聞く」ことが多いと回答した割合は、小5で22.3%、中1で34.8%、中2で36.0%と、学年が上がるにつれて高くなっている。
- ・ 「お互いに発表したり、説明したりする」が多いと回答した割合は、小5で11.5%、中1で7.7%、中2で6.2%と、学年が上がるにつれて低くなっている。

○ 社会

- ・ 「先生の説明を聞く」が多いと回答した割合は、小5で21.2%、中1で36.2%、中2で41.7%と、学年が上がるにつれて高くなっている。
- ・ 「課題について調べ学習をする」「自分の考えを文章にまとめる」「自分の考えや資料をもとに話し合う」が多いと回答した割合は、学年が上がるにつれて低くなっている。

○ 算数・数学

- ・ 「先生の説明を聞く」が多いと回答した割合は、小5で15.3%、中1で23.1%、中2で27.1%と、学年が上がるにつれて高くなっている。
- ・ 「問題をといて、答え合わせをする」が多いと回答した割合は、小5、中1、中2ともすべての活動の中で最も高く、他教科と比べても大幅に上回っている。

○ 理科

- ・ 「先生の説明を聞く」が多いと回答した割合は、小5で16.8%、中1で25.4%、中2で29.6%と、学年が上がるにつれて高くなっている。
- ・ 他の質問項目について、3つの学年で大きな差は見られなかった。
- ・ 「実験や観察、見学など体験をする」が多いと回答している割合は、どの学年も40%程度と最も高い割合を占めている。

○ 英語

- ・ 中1・2とも、概ね「聞く」「話す」「読む」「書く」活動が大差なく行われている傾向がうかがえる。
- ・ 音読を含めて「読むこと」の活動は、中1が31.1%、中2が31.4%であるが、「書くこと」の活動においては、中1は20.7%、中2は17.2%であり、学年が上がるにつれて低くなっている。

④ 授業の在り方に対する意識の傾向

- 小5では、「難しい課題に挑戦する授業」や「自分たちで調べて、課題を解決する授業」に「とてもやりがいを感じる」と回答した割合（45.4%、53.9%）が高い。
- 「難しい課題に挑戦する授業」「自分たちで調べて、課題を解決する授業」に「とてもやりがいを感じる」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。